

---

# コードレス

ノム太郎

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

コードレス

### 【Nコード】

N2744D

### 【作者名】

ノム太郎

### 【あらすじ】

予備校教師の誇生<sup>かい</sup>はどこか物足りなくだらしない毎日を過ごしていた。そんなある日、誇生が浪人時代に付き合っていた奈海からの電話がかかってきた。12年前と変わっていない部分、そして完全に変わってしまった部分がお互いに交差する。時間的な距離を埋め合うことはできるのか。

## 第一話

ドアを開けると相変わらず時計の針の音が部屋に響いている。ドアを開けても部屋に明かりがないことには慣れた。しかし時計の針の音しか聞こえない部屋に帰ってくるのは何年経ってもいまいち気持ちが悪む。玄関で溜め息を一つ吐き出した後、いつものように素早く靴を脱いで一直線に冷蔵庫に向かう。冷蔵庫から冷えた缶ビールを一つ取り出し、背広を来たままですいっつを一気に飲み干す。これだけで一日の仕事疲れを癒せるのだ。なんとも単純な人間だと自分でも笑える。

スウェットに着替え、冷蔵庫で2本目の缶ビールを仕入れてからソファーに座り、コンビニで買った弁当を味わうことなく胃に押し込んだ。テレビでも見ようとリモコンを探したが深夜1時という時間を思い出してやめた。どうせくだらない番組しかやってないことくらい知っている。

何もすることがなくなってベッドに横になった。しかし目を瞑っても眠気は全く襲ってはこない。仕方なく今日一日に思いを馳せてみる。しかし瞼の裏に甦る映像はろくでもない一日の断片ばかりだ。嫌になつて昨日を思い出して、一昨日を思い出して。そしてこの何年かの僕はといえばくだらない生き方ばかりをしていることに気付く。知らず知らずのうちに溜め息が積もって行く。

その時、携帯が鳴った。あまりにも予期せぬ出来事だったので最初はそれが携帯の着信音だとも分からなかったくらいだ。僕は頭を左右に何度か振り、意識を確かにさせてから携帯を手にとった。サブディスプレイには知らない番号が表示されていたが、とりあえずそのコールに出ることにした。

## 第二話

「もしもし」

僕は瞬時にその声で相手が誰だか分かった。

「もしかして、奈海<sup>なみ</sup>？」

「分かった？久しぶり。携帯番号あの時から変えてなかったんだ。」  
とくにこれといって抑揚のない声、それでいて少し昔より疲れているような声で奈海はしゃべった。

「久しぶりすぎてびっくりするよ。どうしたの？」

「何かなきゃ電話しちや駄目なの？なんとなく久しぶりに誇生<sup>かい</sup>の声が聞きたくなったの。今電話して大丈夫だった？」

「大丈夫だよ。さっき仕事から帰って来てベッドに横になっていたんだけど全く眠気がこなくて困ってたんだ。」

「相変わらず私ってタイミングが良いのね。」

そう言って奈海は笑った。声はもちろんのこと、笑い方も十二年前と全く変わっていないかった。それがなぜか僕は嬉しく感じた。どんなに月日が流れても奈海の声は僕の心の奥にしみてくる。頭からつま先まで、奈海の声は僕の体の節々を刺激する。

「誇生<sup>かい</sup>って今何の仕事してるの？」

「今は予備校の教師をやってる。」

「そうなんだ。誇生は私と違って頭良かったもんね。」

少し嫌味っぽく言う奈海も変わっていないかった。僕が得意なことや自慢げな話をする、少しはにかみながら嫌味な言葉を返してくる。僕と奈海の会話のパターンだ。懐かしさが自然と込み上げてきた。

「奈海は今どうしてるの？」

会話の流れに身を任せ、僕は何気なく聞いてみた。

「今はどこにでもいるような平凡な主婦をやってる。」

そうなんだ、と言った瞬間自分の声が沈んでいることに気付いてちよっぴり気恥しくなった。奈海のことなんてもうちっともひきずっ

てないと思っていた。そりゃ別れた後は結構長い間ひきずっていたのは事実だ。けどもう自分なりに整理できていたし、もちろん奈海と別れた後に何人かの女の子とも付き合った。それなのに、それなのに奈海から結婚しているということを知らされた瞬間に声のトーンが不覚にも下がってしまったのは、電話がかかってきた瞬間にくだらない期待をしていた自分がいたからなのだろうか。

「子供が二人いるの。5歳と2歳で二人とも女の子。ねえ、私が結婚してるってことショックだったんでしょ？」

「少しね。」

と言って僕は笑った。奈海にはかなわないことくらい知っているから、仕方なくそう言った。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2744d/>

---

コードレス

2011年1月28日11時00分発行